

フラジルから、 こんにちは！



フラジル ツパン市 日系社会青年ボランティアより
日本のみなさまへのおたより 2号

みなさま、Bom dia!! (ぼんじーあ)

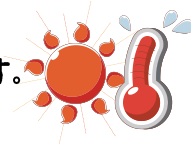
JICA日系社会青年ボランティア 日系日本語教師として、平成24年7月よりフラジルに派遣されています松原有希と申します。

人生最速の速さで時は流れ、あっという間に渡航してから1年がたちました。「住めば都」とはよく言ったもので、活動や生活も日常生活化し、この街がどんどん好きになってきています。慣れることは良いことですが、慢心せずに毎日を大切に生活していきたいと考えています。前回発行の1号同様この紙面を通じて、活動の様子やフラジルについてお伝えしていきます。



フラジルの冬は寒い！？

南半球にあるフラジルの今の季節は「冬」です。冬とはいっても、フラジルで雪が降ることはめったにありません。でも、今年は例年より寒いのだとか。フラジル南部からは雪の便りが聞こえました。わたしの住む街は、雪は降りません。ひととき日が出れば、気温がぐんぐん上がり、半袖でも暑い状態になります。そうかと思えば、朝夕は涼しさを通り越して、ちょっと寒い…。わが街の子どもたちは、映像でしか雪を見たことがありません。ぜひ雪の感触や雪遊び体験をさせてあげたいなと思う日々です。



活動の様子から



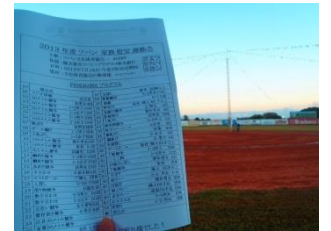
わが日本語学校では、日本語を教えるほかに日本文化についてふれる時間も設けています。毎週金曜日は、「文化活動の日」。3か月に1回、「料理会」を行い、日本の料理を紹介しています。

7月は、「クリームシチューづくり」。フラジル育ちの子どもたちには、まったくなじみのない料理です。料理会では、みんなで力を合わせて料理を作ります。野菜を切って、炒めて、煮込むだけの簡単さですが、家で料理を作る機会のない子どもたちは悪戦苦闘。おっかなびつくり包丁を握り、野菜や肉を切ります。シチューのルーは、ちょっと高価ですが、フラジルで売っているんです！日本家庭の定番の味の感想は・・・「おいしい!!」「素晴らしい!!」の声が飛び交い、「おかあさんに持って帰りたい」という声も。大好評のメニューとなりました。料理作りも、いい体験になったようです。

日系社会のイベントから・・・「運動会」

年に一度の運動会が、7月に行われました。

戦後から毎年行われているそうです。運動会は、子どもから大人までみんなが楽しみに参加しているイベントです。毎年変わらない種目数はなんと50!!早朝7時30分からの開会式ではフラジル・日本両国の国歌斉唱と国旗掲揚があります。そして、競技はラジオ体操からスタート。毎年変わらない流れのため、お手伝いする皆さんの行動が機敏かつ迅速なことに驚きます。競技には、参加対象が決まっていて、その時参加したい人が集まって参加するスタイル。競技のネーミングがおもしろく、「夢再び」「新婚旅行」など、「どんな競技なの?」と思わせる抜群のセンス。



盛り上がったのは、「出稼ぎ」というリレー。

大きなトランクやスーツケースをバトン代わりに抱えながら走ります。こどもから大人まで全力でトラックを駆け抜ける姿は圧巻です。なかなか思うように走れず、転ぶのもまたご愛きよう。みんなで、笑いながら楽しく過ごす恒例行事の「**変わらない良さ**」を感じた一日でした。



「日本VSフラジル」の試合の日、ちょうど学校のイベントがあり、みんなでテレビ観戦をしました。日系人の皆さんに「どっちを応援するのですか?」と伺うと、100%、「フラジル!!」というお答え。ゴールの度に、歓声上がり、花火があがりました。そんな皆さんも、「フラジル以外と日本が対戦するときは、もちろん日本を応援するよ!」とのことでした。



フラジルといえば! ? その2

みなさん、フラジルと聞いて、何を想像されますか? 前は、コーヒーとカーニバルについてお話しました。今回は、この2つについてお話しします。



「サッカー」

フラジルといえば、サッカーですよ!

フラジルで「サッカー」は「フットボール」といいます。

赴任当初、「好きなチームはどこですか?」と何度も聞かれました。フラジルの皆さんはごひいきの応援チームがあつて、そのチームを愛してやみません。試合のある日は、チーム旗を家の外や車に掲げ、試合前には花火を上げます。ゴールすると、花火がご近所中で鳴り響き、試合を見ていなくても、試合情勢がわかるほど! それだけ国民的スポーツであることがわかります。

2014年にはワールドカップを控え、日本でもフラジルの注目度は上がっていると思います。今年は、FIFAのコンフェデレーションカップで、日本チームも果敢なプレーを魅せてくれたのは記憶に新しいところです。

「アマゾン!!」

フラジルの北には、アマゾン川があり、ジャングルがある・・・、というのは日本の皆さんもご存じのことだと思います。アマゾンと言えば、ピラニアがいて、なんでも食べちゃうその魚に恐怖を感じる方も少なくないでしょう。そんなアマゾン川には泳げるところもあるんですよ。今年の冬休みを利用して、フラジル北部「ベレン」におじゃましました。アマゾン川の下流に位置し、突如現れる大都市で、10月に行われるナサレ大祭で有名な街です。遊覧船を利用した観光ツアーがあり、川を下って1時間30分ほど行った小さな島に泳げる場所があります。波もあって、川の色こそ茶色ですが、その広さに海と見間違ふほど。しっかりアマゾン川デビューを果たしてきました。今度はピラニアにもお目にかかりたいですね。



1年が経過し、任期の折り返し地点を迎えました。ようやく1年の流れがつかめた今、これからは前に進み続ける毎日となります。日々周りの方々への感謝の気持ちを忘れずに、あと1年駆け抜けます! 2013. 8 日系社会青年ボランティア平成24年度派遣 フラジル 松原有希